

杉山雄一氏は、いま最もアクティブな薬学研究者の1人。東京大学薬学系研究科教授、分子薬物動態学教室を主宰する。今年2月には「医薬品評価科学教室」の担当教授も兼任し、医薬品の適正評価や、そのためのデータ作成に携わる人材育成を目指している。日本薬学会賞、米国薬学会

賞も受賞するなど杉山氏の研究に対する評価は高く、国際的な学術団体等の運営でも中心的な役割を果たしている。年間約3カ月は海外に出張し、海外の学会、企業、大学での講演数は既に300回を数える。まさに国内外を股にかけ、分刻みのスケジュールをこなす。その素顔に迫った。



杉山氏（中央）を囲んで（研究室の集合写真）

「カリスマ先生」登場

東京大学大学院教授 杉山 雄一氏

昔は目的意識のないダメ学生

杉山氏が薬学を目指した動機は、意外にも「積極的なものではなかった」。学生時代は心身症にも悩んでいたそうで、それを解消する術がないかと、一旦は教養1年の時に医学部を志望したが、1年留年しても医学部に入れる可能性が低いと判断し、志望に比較的近い薬学部を選択したというのが真相らしい。

薬学進学後も「目的意識は低く、やる気のない学生生活を送っていた」と述懐する。薬学研究所の何が面白いのか分からず、4年次の研究室配属の際には苦勞したという。ただ「数学が得意」で、製剤学では数学を使った講義が多かったこともあって、製剤学研究室を選んだ。数学の基礎があれば、研究はできると踏んだのだ。この選択が成功し、「運が良かった」と述懐する。ただ配属後も、「やる気のない学生」には変わりがなかった。

そんなダメ学生だった杉山氏に転機が訪れる。自信のなさのため、まだ社会に出たくないという理由で博士課程に進んだ矢先、直接、研究の面倒をみてくれていた助手が製薬企業に移り、自分自身で勉強せざるを得ない状況に陥ったのだ。それに、博士課程1年が修了した段階で、花野学教授から助手になるよう誘いを受けた。当然、杉山氏にも学生が配属され、一転、学生を指導する役回りとなった。この頃から今につながる本格的な研究活動が始まったという。

能力の限界を超えてチャレンジ

杉山氏が若い人に伝えたい言葉は“経験第一主義”。

▽頭の中で悩むだけでなく、とにかく行動してベストを尽くし、体験的に理解する▽それに気づくために毎日を精一杯生きる

▽100を狙って目標を達成できず挫けても、ゼロにする必要はない▽少しずつ努力を続けて2倍、3倍の時間を費やせば目標は達成できる▽苦しいときはペースを落としても、絶え間なく努力し続ける——「これは生きるコツでもある」と語る。

特に研究は「自分が目一杯やったという経験、自分自身の意見を他人に伝える経験を繰り返すことで自信がつく。そういう時期が絶対に必要」と強調する。さらに、失敗を恐れて自分の能力範囲内でしか研究しないという姿勢では、良い研究者になることは難しいと。杉山氏は「自分の能力以上に、仕事を引き受け、頻りにキャパシティオーバーになるが、何事も経験と考え引き受けてしまう。経験によって自分の能力も活性化し、次の仕事につながる。150%を目指すことが大事」と笑う。

研究に対する姿勢も厳しい。「研究者として信じられるのは、正しい実験データと自分の頭を使った解釈だけ。たとえノーベル賞受賞者の書いた記述でも、それを頭から信じないでほしい。自分が納得できなければ、反論しなさい。そのデータを基に自分の頭で考え、

納得して初めて信じなさい」と語る。

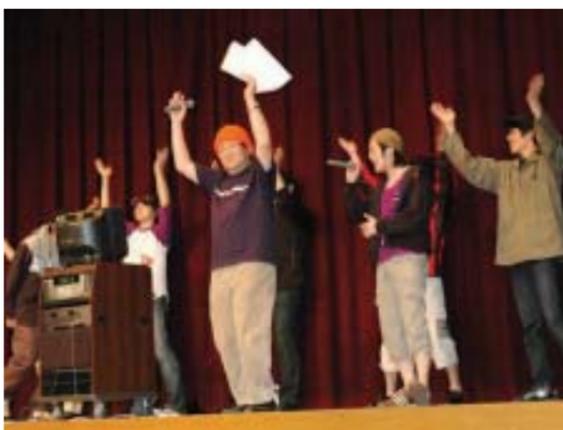
杉山氏によれば、日本人研究者のレベルは海外と比べ、対等あるいはリードする分野も増えてきた。ただ、自分の意見をいう訓練が欠けている。同じデータ量でも、外国人と論議すると語学力不足のみならず、日本人が自らの意見を他人に話すことが苦手なために、対等な論議ができず負けることが多いと指摘する。そのため「外国人との討論が全く苦にならない研究者を大勢輩出する」ことを目指して、研究室では原稿なしで英語での発表を練習させている。

200%の努力と天命待つ精神で

最後に若い研究者へのアドバイスを尋ねた。「自分の行っている研究に専念しよう。一つの領域のエキスパートになることができれば、他の領域に踏み込んでいくことは容易。面白い時には200%エネルギーを注げば良いし、疲れたら休む。真理の抽出されてくる過程を楽しんでほしい。研究は苦しいところが多いからこそ、絶対に面白いところは徹底的に楽しみながらやらないと長続きしない。“これだけやったのだから、後は野となれ山となれ。明日は明日の風が吹く”、この精神がないと自滅する」と明解。

何にでもチャレンジする杉山氏だが、一番の趣味はゴルフ。ただしラウンドは1カ月に1回程度、しかも海外と日本で半々。本気でラウンドするのは、ライバルのいる国内で、2カ月に1回のような。そのほか自らギターを弾きながら、学生と一緒に歌も唄う。最近ではオレンジレンジやケツメイシといったポップスも練習中。次のキャパシティオーバーは外国のラップへの挑戦。

真のチャレンジ精神と実践、それを楽しむことを見習いたい。



オレンジレンジの「花」を唄う杉山氏

CRC募集

CRCとは治験コーディネーター（Clinical Research Coordinator）の略で、治験に参加する人（被験者）と医師、治験に関係する医療機関のスタッフ、治験依頼者（製薬会社）とのパイプ役となり、治験がスムーズに進むように調整（コーディネート）を行うスタッフのことです。現在、InCROMでは37名のCRCが活躍しております。



募集要項

- 必要条件 薬剤師 看護師 検査技師の有資格者
- 勤務地 大阪事業所・東京事業所
- 勤務時間 8:30～17:30（実働8時間、時差出勤制度あり）
- 休日 年間120日（社内指定休）
- 待遇 薬剤師・看護師：年俸4,290,000～
検査技師：年俸3,710,000～ ※ともに時間外手当あり
各種社会保険完備、通勤交通費（実費支給）、昇給年1回
- 応募方法 履歴書（写真要）を郵送ください。
- 送付先 大阪府吹田市春日4-12-11 千里サンプラザ新館（担当：高瀬）
東京都新宿区新宿5-15-5 新宿三光町ビル2階（担当：国府田）

- 主な業務
- 治験参加のための補助説明
- 通院スケジュール管理
- 被験者からの相談窓口業務
- 治験実施医療機関内の治験に携わるチーム内の調整
- 治験依頼者との連絡業務
- 各種書類の作成
- 症例報告書の作成補助



今年で設立22周年を迎える、株式会社国際医薬品臨床開発研究所（InCROM Insutitute, Inc）は、治験業界のバイオニアかつ業績No.1の存在として、臨床試験のトータルサポートを行っています。さらに民間中規模病院、各専門領域における臨床試験の経験・知識が豊富な先生方と緊密な業務提携関係を築きあげ、日本の治験における問題点の解決に取り組んでいます。また、医薬品開発の世界規模化に対応し、ロンドンに欧州医薬品臨床開発研究所（EuCROM plc）及び上海に上海医薬品臨床開発有限公司（ShanCROM Ltd）を設立し「日本の医薬品を世界に、世界の医薬品を日本に」を実践し、社会貢献と質の高い臨床試験の実施を目指しています。

株式会社国際医薬品臨床開発研究所
web: <http://www.incrom.jp>